

実習指導の自己評価に関する研究

キーワード：臨地実習、実習指導、指導過程、自己評価

領域・氏名

看護（基礎看護学） 助教 / 坂井謙次

概要

臨地実習指導において、学生の関わりが患者にとって看護となるように指導できているかと、指導を自己評価しながらより良い指導となるよう努めることが求められます。諸現象が絡み合う実習状況において、どのように自己評価することがより良い指導につながるかについて研究しています。

具体的な内容

これまで、実習指導場面を患者—学生—教員の関係性から見つめ、指導後の学生や患者の変化の意味や教員の指導上の判断について分析、検討してきました。そして、抽出した「実習指導の自己評価の構造」を活かし、実習指導に困っている指導者の役に立てればと思っています。

患者と学生にどのような関わりがあったのか、学生と指導者にどのようなやり取りがあったのかという実習指導過程とのつながりをもって、意識していなかった指導者自身の認識を事実的に見つめなおすことで、多くの気づきが生まれます。その気づきは、実習指導のやりがいにつながっていくと実感しています。

Information (情報)

実習指導の振り返りだけでなく、看護実践の振り返りについての検討において、連携が可能です。